

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	練馬区立こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日		～ 令和7年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師、PT、OT、心理師、保育士がチームを組んで多角的な支援を提供できる。	チーム内の情報交換、共有をスムーズに図れるよう組織体制を明確にした。	中核施設として、区と協力しながら療育、保護者支援を更に充実させるとともに、福祉・教育との連携システムやプログラムの開発を行い、地域全体のエンパワメントに貢献することを目指す。
2	区における障害児支援の中核施設としての役割を担っており、職員の役割意識が高い。	職員の知識・技術の向上を目指し、職員研修の充実を行っている。	困難を抱えるこどもについての研修や実践の分析を通して、療育へのニーズや課題について一層深め、実践に活かしていく。同時に保護者支援についても実情に合わせた支援内容を検討していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者へのよりきめ細やかな情報提供	クラスの前後の時間で十分に保護者が相談できる時間を確保できないという現状がある。	保護者が相談したいときに誰にどのような方法で連絡すればよいかを予め説明する。また、効率的な情報提供の手段として、積極的にお便りを活用し、内容を充実させていく。
2	職員数の多さや勤務時間帯のずれ等から来る情報共有の不足	多様な職種に加え正職員、非常勤、パート職員など勤務時間も異なることから、全職員が一同に会する機会が持ちにくい。研修や会議の開催、さらには防災組織、訓練の実施にも難しさがある。	課題を迅速に会議で検討し、決定内容が確実に決まったルートおよび方法で全職員に周知される体制を整備していく。
3			